

香川大学と私

熊野 真美

(教育・平成5年卒 高松市立浅野小学校)

私は、生まれも育ちも香川、さらに生粋の香川大学っ子とって過言ではありません。

香川大学との出会いは6歳。家から徒歩で通うことができる香川大学教育学部附属高松小学校へ入学し、教育への情熱あふれる先生方にご指導いただきながら、伸び伸びとした校風の中育ちました。その後、附属高松中学校へバスで通学し、3年間クラス替えなしという絆が深まる環境の中で義務教育を終えました。その間には、毎年2回教育学部から教育実習に来られる、教師を目指すたくさんのお兄さんお姉さん先生と触れ合うことが大きな楽しみの1つで、教育実習期間を心待ちにしていたものです。そのような影響も大いにあったのでしょう。大学への進路を決める際、教師になりたいと考え、地元である香川大学教育学部へと入学し、社会科研究室で4年間のかけがえのない学生生活を送りました。香川大学在学中には、共に教師を目指す研修室の仲間たちと充実した毎日を過ごし、そして丁寧にご指導してくださる先生方のおかげで、無事教師になり今日に至っています。

しかし、ここで「香川大学と私」は終わりではなかったのです。小学校教師として勤務する中で、内地留学で平成28・29年には香川大学大学院でお世話になり、改めて学ぶ機会を与えていただきました。現在は教職大学院として体制が変更になっていますが、当時は大学生や教員免許取得を希望する大学院生と共に交わることができ、自分の教員生活を振り返る貴重な経験でした。大人になってから改めて学ぶことで、学ぶことの楽しさを実感した2年間でした。このように、私の人生の大部分は香川大学と関わりながら過ごしてきたので、本当に香川大学には思い入れがあり、感謝の気持ちでいっぱいです。

今、学校現場は昨年からのコロナ禍で学校行事の見直しや精選、そして日常的な感染症対策に緊張感をもって取り組んでいます。教頭として、児童が制約された学校生活の中でも、明るく楽しい学校生活を送ってほしいと日々心がけ、業務に当たっています。さらに、一人一台 GIGA 端末タブレットが配布され、児童は毎日自分専用のタブレットを立ち上げて、授業に活用したりドリル問題アプリを活用したりと、急速な ICT 化に日々奮闘しつつ対応しています。

今後も、刻々と時代の変化が予測されますが、松楠会の素晴らしい諸先輩方にご指導を賜りながら、現場の先生と共に、未来への展望を切り拓く教育活動を進めることができるよう尽力していきたいと思っています。そして、香川大学の益々のご発展を祈念いたしております。